

## \* 労働市場速報（平成27年7月分）について（解説メモ）

### 1. 有効求人倍率の動向等 【表2a】

- 有効求人数（季調値）は、101,520人で、前月比2.7%増となった。
- 有効求職者数（季調値）は、107,477人で、前月比0.6%減となった。
- この結果、有効求人倍率（季調値）は0.94倍となり、前月から0.03ポイントの上昇となった。

### 2. 新規求人倍率の動向等 【表2b】

- 新規求人数（季調値）は、36,798人で、前月比7.5%増となった。
- 新規求職者数（季調値）は、23,785人で、前月比3.4%減となった。
- この結果、新規求人倍率（季調値）は1.55倍となり、前月から0.16ポイントの上昇となった。

- 主要産業別新規求人数（原数値～前年同月比）は、製造業（1.4%減）、専門・技術サービス業（11.1%減）、サービス業（1.0%減）は減少した。他の産業は増加した。

全産業では前年同月比8.1%の増加であった。【表4】。

### 3. 常用新規求職者の態様別動向等 【表5】

- パートタイムを除く常用新規求職者（原数値）を態様別に見ると、離職者（前年同月比10.3%減）、在職者（同6.8%減）、無業者（同12.4%減）とともに減少した。

### 4. 雇用保険受給者の動向 【表6】

- 雇用保険受給者の動向については、7月の受給者実人員は29,072人で、前年同月比7.8%減少した。

#### （雇用情勢の概況）

7月の有効求人倍率（季調値）は0.94倍で前月から0.03ポイント上昇した。求人・求職の動きは、新規求人数（原数値）は、前年同月比8.1%増加、新規求職者（原数値）については、8.2%減少した。

県内の景気は、緩やかに回復している。雇用情勢については、一部に弱さが残るものの、持ち直しに向けた動きが広がっている。

■景気判断は日銀横浜支店（7月） ■雇用情勢判断は20ヶ月据え置き

今後も、雇用情勢について引き続き注視してまいりたい。